

# 連携

## 第71号

### 病院の理念

わたしたちは、患者さまを第一に考え、いのちを大切にす最善の医療を行い、地域に貢献します

### 基本方針

わたしたちは、患者さまのことを考え、いのちを大切にします

1. 市民から信頼される、安全な医療を行います
2. 良質な医療を行うために、つねに新しい知識と技術を身につけるように努めます
3. 地域のニーズに合った医療を提供することで、地域に貢献できる病院をめざします
4. 地域の医療の中心として、ほかの医療機関との連携に努めます



## 感染制御センターの役割と現状について

感染制御センター長 平湯洋一

宮城県立循環器・呼吸器病センターの閉院に伴い、当院に結核病棟としての感染制御センター（2階東病棟）が開設され、平成31年4月1日に患者の移送を行いました。患者移送に際しての詳細につきましては、宮城県医師会報2019年6月号に寄稿しましたので興味のある方はご一読いただきたいと思います（pdfファイルあります）。

新しい感染制御センターは29床を擁し、循環器・呼吸器病センターより感染制御センター長として着任した筆者、および当院の看護師11名に宮城県立循環器・呼吸器病センターの結核病棟から転勤となった6名の計17名の看護師が中心となり診療を行っています。

結核は感染症法で2類感染症に分類され、医師は結核と診断した場合、速やかに最寄りの保健所に届け出を出さなければなりません。このうち喀痰塗抹陽性で感染性があると判断された場合、保健所は入院勧告を出します。PCR陽性・塗抹陰性など感染性が低いと判断された場合は原則外来での治療となります。宮城県では当院が唯一の結核病棟を有しているため、県内で発生した排菌性結核患者は当院に入院することになります。

循環器・呼吸器病センターでは年間60～80例の入院患者がありました。4月1日に移送された患者は8名で、4月中に新規入院が8名あり、7月末までの4か月間でのべ34名が入院しています。このうちすでに26名が退院しましたが、内訳は自宅退院13名、転院8名、施設入所2名、転棟1名、死亡退院2名でした。結核の治療がうまく行われ、退院した患者の中には基礎疾患の悪化や加齢により直後に死亡する残念なケースもあります。院内発症や外来で診断された患者の入院も増えてきています。今後どうぞよろしく願いいたします。



## 栗原中央病院市民ふれあい祭り 2019 大成功



2019年7月20日（土）、快晴のもと市民ふれあい祭りが開催されました。今年も来場者の期待にお応えして例年同様のブースを構える部署と栗原中央病院をもっと知って頂きたい思いから、工夫を凝らした新ブースを構える部署、更にパワーアップしたステージ企画など盛りだくさんの内容で開催されました。当日は約1400名の来場があり、例年以上の盛り上がりでした。参加した方からは、「大変なにぎわいでびっくりした！」「体験できるブースが多くて楽しかった。」「楽しく学ばせてもらっています。」「スタッフが親切丁寧に説明してくれてうれしかった。」という言葉を受けました。

今回も築館高校ボランティア部、築館消防本部のご協力のもと、また多くの医療介護事業所さんにご協力頂き、来場者だけでなく参加したスタッフみんなが笑顔になるふれあい祭りとなりました。

「このイベントによって病院が身近に感じました。」「これからも続けてほしい。」という、市民の声を大切にしていきたいと思えます。



## 第27回連携のつどい“よらいん” 「高齢者虐待防止教育研修」

講師：社会福祉法人東北福祉会



認知症介護研究・研修仙台センター  
研究部長 吉川 悠貴 先生



今回は外部より講師をお招きし、高齢者への虐待防止について研修しました。

栗原市内多くの事業所や院内スタッフを含め131名の参加を頂き研修を行いました。

虐待防止に取り組む意義について、問題やその背景を皆が理解し防止に向けて職場全体で考えて行く必要があるとのお話でした。



参加者からは「いつものケアが虐待になるかもしれないと気付かされた」という意見が多く聞かれました。また厚労省からも事業所内での虐待防止研修を推進されているが、多くの事業所が未開催である現状もわかりました。



今回の研修会をきっかけに虐待防止研修会の開催やケアの見直し、スタッフの関わり方など振り返りにつながればと思います。

## 第28回連携のつどい“よらいん” 「自分らしく生きる



～緩和ケアの役割～

講師：栗原中央病院



がん化学療法看護認定看護師  
副看護師長 高橋 寛子

今回は緩和ケアの役割をテーマに高橋看護師から基本のお話やがんと告知された患者様・利用者様、家族への関わり方などお話いただきました。また事例をもとにした他職種によるグループワークが盛り上がりを見せました。参加人数113名、様々な視点からの意見が聞かれました。患者だけではなく、家族への配慮の必要性や現在行われている疼痛管理など情報を共有・共感できる時間となりました。

高橋看護師は患者や家族が気持ちを話し出そうとする沈黙の時間を大切に、奥底にある気持ちを聞く勇気をもってほしいと話していました。



## 学会・研修会・論文発表

☆第25回日本心臓リハビリテーション学会 学術集会 2019.7.13~14 大阪国際会議場

心肺運動負荷試験において Borg 指数 13 を申告しない症例についての検討

太田浩貴<sup>1</sup> 高橋ひとみ<sup>1</sup> 鎌田文彦<sup>1</sup> 前川芳輝<sup>1</sup> 荒井豊<sup>1</sup> 伊藤大亮<sup>2</sup> 澤邊直美<sup>3</sup>

深澤恭之朗<sup>4</sup> 尾形剛<sup>4</sup> 矢作浩一<sup>4</sup> 平本哲也<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 栗原中央病院 リハビリテーション科 <sup>2</sup> 東北大学大学院医工学研究科 健康維持増進医工学分野

<sup>3</sup> 栗原中央病院 看護部 <sup>4</sup> 栗原中央病院 循環器内科

☆第27回星陵循環器懇話会 2019.7.6 江陽グランドホテル

市民マラソンに参加し AED 作動により救命された心室細動の2例

栗原中央病院 循環器内科 田中絹子 尾形剛 深澤恭之朗 矢作浩一 平本哲也





## 表彰



全国栄養士大会 栄養改善事業功労者  
栄養管理室 伊藤義博 室長



## 院内研修会

### 医療安全研修会

日時：2019年6月19日（水）17:30~18:30 講義室

講師：高橋 裕保 薬剤科長

テーマ：「麻薬・向精神薬の取り扱いについて」



今年度初となる医療安全研修会は、「麻薬・向精神薬の取り扱いについて」をテーマに当院薬剤科高橋薬剤科長から講義をいただきました。通常、麻薬・向精神薬がどのように管理され、どう取り扱われているのか、Q&A方式で話され具体的でとても分かりやすい内容でした。

### 壊死性軟部組織感染症について

日時：2019年6月25日（火）17:30~18:30 講義室

講師：(症例報告) 李 智祥 研修医 (講義) 平湯 洋一 感染制御センター長

テーマ：「壊死性軟部組織感染症 -AEROMONAS HYDROPHILA を含めて-」



令和元年6月25日に壊死性軟部組織感染症研修会を開催いたしました。研修医の李智祥先生より事例紹介をしていただき、感染制御センター長の平湯洋一先生に壊死性軟部組織感染症の講義をいただきました。過去に報告されている *Aeromonas Hydrophila* による壊死性軟部組織感染症は、日本では本症例が2例目、世界でも十数例しかなく、実際にかかなり珍しい症例です。参加者からも、実際に珍しい症例の報告が聞けたこと、壊死性軟部組織感染症の怖さや早期発見、早期治療の重要性について学べたことなど参加してよかったとの声が多数聞かれました。今後も感染症の治療やケアなどについて適宜研修会を開催できればと思っております。

### 院内感染対策 学術講演会

日時：2019年6月26日（水）18:30~20:00 講義室

講師：東北医科薬科大学病院 感染症内科 関 雅文 教授

テーマ：CDIの診断と治療戦略



東北医科薬科大学医学部感染症学教室の関雅文教授より「C. diff 感染症を念頭に置いた感染症診療と抗菌薬の適正使用について」講演いただきました。新しい治療薬や最新の情報についての講話から、日頃からの感染対策・情報共有の重要性に気づいてくださった方々も多くみられました。今後の診療、感染対策に活かしていただける内容でした。

栗原市立栗原中央病院

〒987-2205 宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1

栗原市立栗原中央病院（代表）TEL：0228-21-5330 FAX：0228-21-5350

<http://www.kurihara-central-hp.jp/>

地域医療連携室（直通）TEL：0228-21-5335 FAX：0228-21-5336

### - 編集後記 -

今年の夏もどうやら暑いようです(+o+)

熱中症対策として、様々なグッズや食品がたくさんありますね。こまめな水分補給と併用してこの暑さを乗り切っていきましょう！！

